平成２９年９月２８日（木）　　京都市立洛風中学校　Ｎｏ．６

洛風だより・ほかほか通信
～保護者のみなさまへ～

子どもの成長について

成長するとは、「できるようになる（成果）というより、「まわりの期待と自分との折り合いをつけるところ（過程）」を言うのではと思います

先週の「カウンセラーを囲む会～思春期・子育て・学び合い」では岩井先生から「子どもの成長について」を下記の図をつかってお話していただきました。

子どもの本音

しんどい・できない
わからない・いやだ
嫌い・怖い
時間がかかる
めんどうくさい
恥ずかしい

とにかくやってみる
歯を食いしばっている
人の話を聞いてみる・教えてもらう
適当にあきらめる
愚痴を言いながら
代償を見つけながら

大人の期待

課題達成
課題を仕上げる
良い成績をとる
勝負に勝つこと
コツコツ続ける
仲良くする・規則を守る

折り合いをつけている・成長しようとしている・過程

成長しようとしている過程を、どっしり、じっくり見守る

「実行委員になって、夏休み前から活動をしていたけど、先生が主となってではなく、実行委員が主となって活動できたので、生徒で協力して最高の修学旅行にできたと思う。そして、初体験が多く、チャレンジできたと思う。
でも一番に、農家民泊を体験して、やっぱり家族は大切だなと思いました。家族がいるから楽しく過ごせるし、自分をわかってくれる信頼があるから大切だなと思った。」

これは、修学旅行のふりかえりの一つです。今回の修学旅行で生徒に伝えようとしていたもの、それは、「一歩踏み出す勇気」です。結果を怖れずに、チャレンジしてみること。そこで体験する過程を大切に味わってほしいこと。そうして、見えてくる景色はきっと違っているという経験です。

３年生のスタッフは、生徒たちの成長を信じ、今回の修学旅行を企画しました。生徒たちはその期待に見事に応えてくれたと思います。ふりかえりにあるように、自分たちでやりきったという自信とともに、民泊での人と人とのふれあいよって、家族への感謝の気持ちにも気づいてくれています。

感謝の気持ちが芽生えることが成長の証し

日頃の子どもたちの様子からは、本音の部分である「できない。めんどくさい」というような心配なところが目についてしまいます。しかし、子どもたちなりに、「歯を食いしばって、愚痴を言いながらも、なんとかしよう」と思って、自分の気持ちと周囲の期待に折り合いをつけながら一歩踏み出す機会を伺っています。その時に周りの大人は、「良い結果」を望むだけではなく、信頼して見守る態度が子どもの背中を押すことになります。

どんなにすごい成果を望んだとしても、私たちには、その子なりの頑張りを信じ、応援し、支えてやることしかできません。人と人とのつながりの中で、家族や仲間、先生など周りの人々への感謝の気持ちが芽生え育っていくことが、人としての成長の証しです。